

(別添4)

【香川県小豆島町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和5年7月に策定された小豆島町教育大綱では、小豆島町教育委員会の教育目標として「ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり」を掲げている。

学習指導要領及び中央教育審議会答申等の内容を踏まえ、児童生徒の1人1台端末を最大限活用しながら、「個別最適な学び」及び「協同的な学び」を実現していくために、全教師が情報教育に対する理解と活用能力の向上に努め、各教科において、ICTを用いた多様な学習を展開し、児童生徒の学習意欲を高め、理解を深める。各種研修会への参加や校内研修の充実を図るとともに、ICTに精通した人材を育成する。

またデジタル・シティズンシップ教育の実践を行い、各教科において、情報の収集、選択、整理、処理、伝達に必要な能力を育成する指導に努め、正しく理解し、楽しく便利に社会生活が送れるように活用する力をつけることを目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に1人1台端末の整備を完了し、これと同時に通信速度最大1Gbpsに対応するネットワークを整備した。

令和4年度から小学5年生以上、令和6年度からは小学3年生以上の児童生徒を対象に、タブレットの持ち帰りを実施してきた。持ち帰りに合わせ、生徒一人ひとりに個別最適な問題を出題するAIドリルの導入を行い、Wi-Fi環境のない家庭にはモバイルルーターの貸出を行っている。

また、各教室にタブレットを投影する大型モニターを整備し、積極的な1人1台端末の活用を進めてきた。

ただ、端末の使用頻度に学校間での格差が明確に出ており、高いレベルでの使用頻度の統一が求められる。

3. 1人1台端末の利活用方策

現在、教育委員会及び各学校の情報担当者で行う情報担当者会議を年に2、3回開催しており、学校現場のICTに関する課題や要望をヒアリング及び情報共有を行い、各学校の利用格差の是正、ICT環境の改善やGIGA第2期の端末更新へ向け準備を進めている。

生徒一人ひとりの理解度や学習状況に応じて、個別最適な問題を提供するAIドリルの利用や、アクティブラーニングや協働学習を支援するツールの活用を引き続き行い、生徒それぞれが主体的に学ぶ力の育成や、教職員と生徒又は生徒同士協働的に学ぶ環境の提供により、「個別最適な学び」及び「協働的な学び」の一体的な充実を推し進める。

1人1台端末のデジタル教材やリモート機能、クラウド環境等を活用し、不登校児童生徒や外国人児童生徒、特別な支援を要する児童生徒等、多様なこどもたちのニーズに合わせた学習を行い、誰一人取り残すことない学びの保障を実現する。